

▲映画対談(ぶっちゃけトーク)

【アトリウム(1F)】 1部 12/1(土) 14:10~15:30 テーマ:映画製作のエピソード
2部 12/2(日) 16:20~17:30 テーマ:映画と地域の関わり
監督・伊藤俊也、監督・本田隆一、プロデューサー・瀬戸恒雄 ほか

▲上映作品の映画監督たちが、映画制作のエピソードや地域の魅力について、来場者と本音で対談する「ぶっちゃけトーク」。楽しいトークにご参加とご協力をお願いします!

パネリスト(敬称省略)



■伊藤 俊也 (いとう しゅんや)

映画監督。1937.2.17生。福井市出身。東京大学文学部美学科卒。主な作品に、「女囚さそり」三部作(72-73)、「誘拐報道」(82)、「花いちもんめ」(85)、「風の又三郎 ガラスのmant」(89)、「プライド 運命の瞬間」(98)。また、日本映画監督協会創立70周年記念映画「映画監督って何だ!」(06)の脚本監督、主なテレビ作品に、「美空ひばり物語」(89)、「白旗の少女」(90)。著書に「幻の(スタオ通信)へ」(78れんが書房新社刊)、「偽日本国」(01小説・幻冬舎刊)。「メイエルホリドな、余りにメイエルホリドな」(09戯曲・れんが書房新社刊)。受賞歴は、日本映画監督協会新人奨励賞(72)、モンテリオール世界映画祭審査員賞(82)、日本アカデミー賞最優秀作品賞(85)、等々。2003紫綬褒章受章、2012旭日小綬章受章。最近作に、「ロストクライム-閃光-」(10)。また、初めての自主製作映画「始まりも終わりのない」完成!2013公開予定、乞うご期待!なお、石井輝男監督作品「網走番外地シリーズ」のうち4作品に助監督として参加している。



■本田隆一 (ほんだ りゅういち)

映画監督。1974年神奈川県生まれ。大阪芸術大学映像学科卒業後、日本大学大学院芸術学研究所に入学し映像芸術を専攻。卒業制作として監督した16ミリ長編「東京ハレンチ天国・さよならのブルース」が、2001年ゆうばり国際ファンタスティック映画祭オースタ部門でグランプリを受賞。トリノ国際映画祭、プチョンファンタスティック映画祭等、海外の映画祭にも招待され、同年暮れに中野武蔵野ホールでロードショー公開された後、全国五カ所劇場公開された。2002年、佐藤佐吉脚本の「セクシードリンク大作戦・神様のくれた酒」で、商業映画を初監督。以後、劇場用映画、オリジナルビデオ、テレビドラマ等、ジャンルにとらわれず作品を撮り続け、ナンセンス且つシュールだが娯楽味溢れる独自の世界を展開。2005年ドイツのハンブルク映画祭、及び第30回湯布院映画祭で「脱皮ワイフ」(05)が絶賛を受けるなど、国内外での評価も急上昇している。近年の主な監督作は「G S ワンダーランド」(08)「市民ポリス69」(11)「大木家のたのしい旅行・新婚地獄篇」(11)など。TVドラマでは「怨み屋本舗Reboot」(09)「傍聴マニア09」(09)「示談交渉人・ゴタ消し」(11)「デカ黒川鈴木」(12)などを演出している。



■瀬戸 恒雄 (せと つねお)

プロデューサー。神奈川県出身。(株)石井輝男プロダクション代表取締役。(株)パナック代表取締役。1970年東映入社、1977年より企画部プロデューサーとして活躍。劇場用映画、ビデオ、TV、アニメなど多岐にわたって数々の作品をプロデュース。多彩な企画力は業界屈指。チーフ・プロデューサーとして、『Wの悲劇』(84)、『桜の木の下』(89)、『修羅がゆく』(95)、『平成金融道/裁き人』(99)、『修羅のみち』(01)、『猿飛佐助/闇の軍団』(04)、『梟鷹強行殺人犯/鬼哭野戦場』(07)のほか、企画として、『ダンプ渡り鳥』(81)、『別れぬ理由』(87)、『極道三国志』(97)、『許されざる者』(03)、『今日からヒットマン』(09)など、多数製作している。また、全国各地の歴史・文化、映画祭に精通し、北海道内では「オホーツク網走フィルムフェスティバル(網走映画祭)」の開催を当初から支えている。



【進行】

■高橋 和憲 (たかはし かずのり)

1948年、網走市生まれ。網走南ヶ丘高校卒、1971年、電気通信大学から共同通信社外電部に入社。技術職員として国際ニュースを配信するネットワークの保守管理と無線通信の運用を担当。1987年~1990年、大阪支社技術部、全国47都道府県の新聞社と放送局にニュースを配信するコンピュータの管理運用、記者に同行し、取材現場から記事・写真・映像を電送する業務に従事する。2002年~2005年、名古屋支社技術部長、2008年6月、東京本社技術部長職を定年退職した。退職後、故郷Uターンし旧呼人郵便局をリフォーム、2009年、自営の事務所・共同インフォメーションを設立。初心者向けパソコン教室を表看板にし、オホーツク網走フィルムフェスティバルのほか、網走ジャズフェスティバルなどまちおこしイベントに積極的に参加。映画「大地の詩」のロケ地・博物館網走監獄で、刑務所職員役としてエキストラ出演する。原作「留岡幸助物語」の著者・藤井常文氏は高校時代の同級生。



【進行】

■平野 雅久 (ひらの まさひさ)

市職員。網走市生まれ。東海大学建築学科卒。都市開発課、社会福祉課などの部局を経験後、北海道庁への出向を経て、現在、湧沸湖水鳥・湿地センターに勤務。この間、一級建築士、一級土木施工管理技士などの資格を活かして、確認申請や宅地造成の法的審査などを経て、都市計画や再開発のプレゼン、太陽光発電の推進、湧沸湖周辺環境整備など、幅広い業務に携わる。2008年、数々の映画のロケ地・オホーツクの魅力をPRし、映画館の無い網走で映画を観る・創る文化を育もうと映画祭「オホーツク網走フィルムフェスティバル」を企画し、博物館網走監獄で初開催。2年目からは会場をエコーセンターに移動。「網走番外地」シリーズのほか、網走で撮影された「ケンタとジュンとカヨちゃんの国」や中国映画「狙った恋の落とし方。」など多くの作品の網走上映を実現した。また、ロケ地マップを作成し、映画監督たちとの「ロケ地めぐり」や毎年「映画教室」を開催するなど、「映像資源」を活かした文化活動を展開。なお、2011年公開の「大地の詩」では、刑務所の看守役としてエキストラ出演している。

□映画教室

【視聴覚室(3F)】

□映画界の第一線で活躍されている映画監督による「映画の作り方」を体験する特別講座です!!

講師：監督・本田隆一

①12/1(土) 16:15~18:15

(映画のプロセス、シナリオ)

②12/2(日) 9:20~12:30 (撮影)

③12/2(日) 13:30~14:30 (編集&上映)

・各定員：30名(先着順)

※事前に実行委員会へお申込みください

▽シネマ屋台

【アトリウム(1F)】

▽会場内のアトリウムの特設屋台において、網走ならではのグルメフードを提供します!!

また、休憩・飲食コーナーでは、映画鑑賞の前後などで自由にお休みいただき、映画関係者、映画ファンとの交流を広げます!

12/1(土) 10:30~19:30

12/2(日) 10:30~19:00

※売り切れの場合はご了承ください

▼パーティー

▼映画ファンと映画関係者(映画監督、プロデューサーほか)との交流を図ります!!

12/1(土) 21:00~23:00

・会場：多国籍居酒屋 ラテル(La Terre)
網走市南3西2 第2ツカサビル1F

TEL 0152-45-1473

・定員：30名(先着順)

・内容：フード、ドリンク付

・参加料：3,000円

※事前に実行委員会へお申込みください

△オープニング

【アトリウム(1F)】 12/1(土) 9:10~9:30

出演：ハローケイスケ、農天揆 ほか

△映画祭を盛り上げるため、吉本興業所属・網走市職員・住みます芸人・「ハローケイスケ」と東京農業大学生物産学部の学生たちで構成するよさこい同好会「農天揆」のフレッシュな踊りのパフォーマンスです。ほかにも楽しい「ネタ」をお持ちの方が出演します!お楽しみください...

